

WACATE マガジン Magazine Vol.36

🍀ご挨拶🍀

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。
WACATE-Magazine 編集部です。

小寒を越え、寒い季節がやってまいりました。
インフルエンザや風邪にお気をつけて！

写真は WACATE 2011 冬の三浦海岸に浮かぶ夜月。



空気が澄んでいたのもので、対岸の房総半島の灯も見え、
とても綺麗でした。

とゆーワケでやってきました WACATE 2011 冬！

WACATE-Magazine vol.36、
はじまるよー！

🍀お品書き🍀

【特集1】

WACATE 2011 冬 Report！

【特集2】

JaSST' 11 Kyushu Report!

【投稿】

WACATE2011 後夜祭

【リレーコラム】

Software Test Topics

【リレーコラム】

WACATE-Blog 出張所

【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

【連載】

今月の STAR☆

【あとがき】

🍀WACATE Topics🍀

WACATE が JaSST' 12 Tokyo でやらかすよ！

★JaSST' 12 Tokyo★

<http://jasst.jp/symposium/jasst12tokyo/details.html>

WACATE 2011 Winter Report!!

—いざゆかん、君の道—



いってきました！ 海！

…じゃなくて
WACATE 2011 冬！

今回もクリスマスが近い
こともあり、立派なツリ
ーがお出迎え♪

この時期に三浦に集まっ
てテストな二日間を過ご
すだなんて、なんてヤツ
らだ WACATE 参加者！

とゆーワケでさっそく冬
だけど熱い二日間を
レポート開始！

<1日目>

■オープニング

「ようこそ WACATE2011 冬へ！」

井芹 洋輝



金髪アフロ姿(名物のゴールデンアフロ!)で登場した井芹さん。

クリスマスカチューシャのアクセントも可愛らしい♪

WACATE 合宿参加の心構えや注意事項などの説明がされました。

■セッション1

「ポジションペーパーセッション」

澤田 悠介

続いてレインボーアフロ姿で登場した澤田さん。

井芹さんの金髪アフロに負けないインパクト!
本人はその姿に慣れるために数時間前から着用して馴染ませていたそうですが…馴染んでいますよ。はいw

合宿参加前に提出することになっていた、ポジションペーパー(A4版1枚)が綴じられたポジペ集を片手に、参加者同士での自己紹介タイムです。

各テーブルに5名ずつ1班となって座り、班の中で自己紹介を行います。1人あたりの持ち時間は3分。ポジペに沿って発表する人もいれば、詰め込み過ぎを反省して、違う内容で語る人もいて様々。3分間の使い方も、時間が余ってオロオロする人もいれば、語り尽くせない人は3分間終了を告げるゴングが鳴ると机に突っ伏して唸っているなど人それぞれ面白い反応でした。

班の中で一巡すると、席替えを挟んで2回目の自己紹介タイムです。1回目は練習みたいなもので、2回目の班メンバーがこれから2日間のワークショップを過ごす仲間になります。

1回目の自己紹介で上手く話せなかった人は、他の参加者の発表を参考にしながらの再挑戦です!1回目の自己紹介を経験したためか、発表者も質問者もリラックスモードの中でのやりとりです。笑い声も聞こえつつ和気藹々といった感じでした。

ポジペも実に様々でした。今回のテーマ“テスト道”に因んで書かれたポジペや、日々の疑問を書いているものもありました。見開きで広告のような一文を掲載する2人の参加者による「軌跡の一枚?」もあり、とてもバラエティに富んでいました。



■BPP セッション

「どうやって周りを変えていく？
～心に響けこの思いっ！～」

名野 馨氏



前回（WACATE2011 夏）の BPP 受賞者である名野さんの発表です。

名野さん自身が WACATE などの社外活動に参加して感じた「楽しさ・気づき・モチベーションUP を、もっと色々な人にも感じてもらいたい！」そんな思いで社内にて WACATE 合宿の報告会をされた時のことです。

WACATE のことを社内に伝えてみた。

→軽い質疑応答だけ、

WACATE のワークを社内で展開してみた。

→盛り上がった！

報告会を実施してみた結果、周囲の反応もよく、とにかく盛り上がりました。だけど、なぜそうなったのか？周りを変える「考え方」と「技術」について、コーチング・ファシリテーション・WACATE の先輩からのアドバイスを交えて考えてみました…というお話です。

○コーチングとは？

コーチング（耳を傾けて聴く力）には6のテクニックがあるという話。

その1：相手を認める。

自ら挨拶をしましょう。「〇〇さん、おはようございます！」と個人の名前を示し、貴方と挨拶したいです！と意思表示。またアイコンタクトも大事です。（☆☆）びかーっ

その2：相手の言うことを受け入れる。よく聞く。

話している間に相手の言うことを整理したり、途中で遮ったり、無理やり解を求めてはいけません。相手も話をしながら思考を整理しているのだとそう思って聞くこと。

その3：コメントをする。

じっと聞くだけでなく、適度に頷く・相槌を打つ。お話ちゃんと聞いていますよ♪と反応を示す。

その4：質問する。

但し自分の回答へ誘導してしまってはいけません。思考を広げながら5W1Hで質問をすること。

その5：目標と理想を知る。

明確な達成目標を掲げる。定量的な方がよい！達成時のイメージを持つ。

その6：フォローする。

きちんとフォローをしてあげましょう。

ということで、意外と出来ていない「1」と「2」。複数人だと一人ひとりアイコンタクトをしながら声掛けをしていなくて、人がいそうな方向を何となく見ながらの挨拶。アイコンタクトを忘れがち。視線が空を…(ー)；

ちゃんとアイコンタクトは取れていますか？

また、相手も思考を整理しながら会話しているのだと、あまり意識していなかったの、なるほど！と思いました。自分が話をする時も頭の中で組み立てながら話しています。相手も同じですよ。優しい心で詰め寄らないように気をつけたいですね。

○ファシリテーションとは？

ファシリテーションは4つのスキルが必要です。

・場のデザイン（チームビルディング）

→目的やゴールを明確にして共に目指す。

・対人関係

→他の人を受け止め引き出すコーチング。

・構造化

→議論の整理をし、論点を絞り込む。

・合意形式

→対立を解消し、意思を決定する。

チームビルディングで大切なことは、メンバーそれぞれの「考え方」「コミュニケーション」「立場」の違いをどう扱っていくか？無意識に存在する心の壁をどう取り払うか？

・自分の意思を持って、腹を割ってじっくり話し合う。

・何をするか？やるべきことを皆で決める。

・進めていくにあたってグラドルールを作る。

・メンバーの立場を知るためにポジションペーパーを利用する。コミュニケーションを取るためにワークを試みる。

・飲みニケーションで相手をよく知る。自分を知ってもらう。

などの例が紹介されていました。

与えられた答えではモチベーションは上がらず、与え続けられただけでは、気づくか・工夫してみよう
する思考力は低下しやすいですね。

何かに挑戦して自力で答えにたどり着くと達成感と共に次はどうしてはいかがでしょうか？とモチベーションも上がりやすい。

目の前にいる相手や周囲のモチベーションUPにはコーチングやファシリテーションの技術を磨くことが重要です。

相手の答えにたどり着けるように導けばいい。

→全知全能である必要はない。

なぜなら、答えは相手の中にあるから。

まずは元気な声で挨拶から！セーのっ！w

■お昼休み



宿泊地マホロバ・マインズ三浦と言えば、カレーバイキング♪

これを楽しみにしている参加者は多いはず！

3種類のカレーとナン、白米、ターメリックご飯。カレーは全部行っておくのが通ですっ！（キッ）
午後のセッションに備えて腹八分目♪満腹さんは睡魔の餌食ですよ？

●Software Testing ManiaX!

もちろん恒例！お昼はManiaXもありました！



■ワークショップ1

「お隣さん」は誰？—インプット、アウトプット、テストプロセスから整理してみよう」

近江 久美子

1 日目のワークショップの時間です。

まずは WACATE のポジベを題材にして、

インプット、
アクティビティ、
アウトプットを各自
で書いてみます。

アクティビティは「書く」ことになります。

例えば、過去のポジベ

を参考にしたなら、インプット＝過去のポジベ、アウトプット＝議論したいこと・・・という感じです。さらにこのインプットとアウトプットの関係者を書き足します。



ポジベを書くのに友人へ相談したなら、インプットの提供する人＝友人。このポジベを受け取る人＝今回の合宿参加者・・・となります。

この「インプット提供人」と「アウトプット受取人」が【お隣さん】ということです。

このお隣さんを意識すると自分の立ち位置が明確になります。



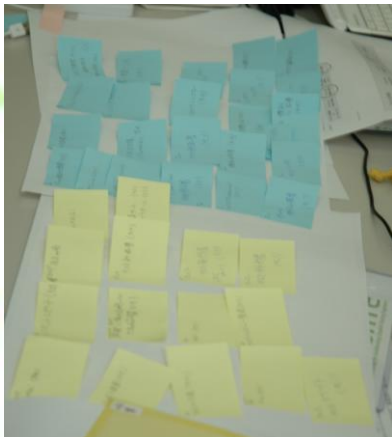
まずは個人ワーク。自身の現在の業務もとに、インプット、アクティビティ、アウトプット、インプットアウトプットのお隣さんを書いてみました。インシデントレポート等のアウトプットは、修正作業をするチーム内の製造者・・・と、目に見えているお隣さんだったりしますが、少し引いて見ると実は次のプロジェクトチームの誰か？のインプットになったりして、お隣さんのお隣さん（未来のお隣さん）が見えて来たりと面白いです。



次にグループワークです。



WACATE ワークショップでお馴染みの三浦マグロさん。三浦さんが担当していたテストプロセスはどこか？またインプットとアウトプット、それに関するお隣さんは？を整理して作図（作表）して、成果物を提出します。



三浦さんが担当していた仕事の資料があまり残っていない設定で、関係者からのヒアリングやメールのやりとり、テストケースやインシデントレポートをもとに解き明かしていきます。

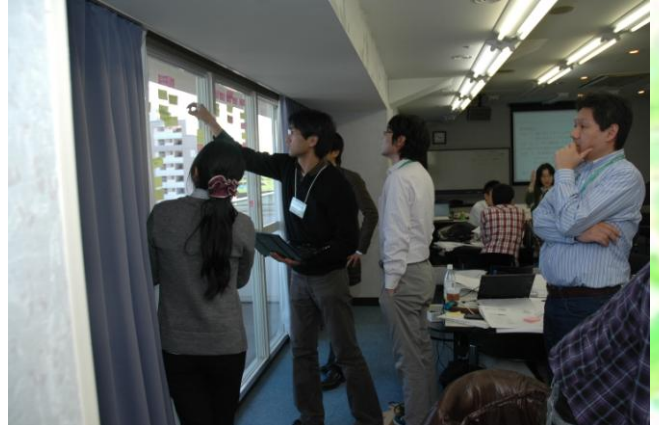


見る人（立場）によってはインプットになったりアウトプットになったりと連鎖していることに気づきます。



自分のアウトプットは誰かのインプットになっているのですね。

そう意識しながらアウトプットをしていくと、何を書くといいのかが見えてきます。



お隣さんを意識することは大切ですね。日々の業務でも意識してみようと思います。「あなたのお隣さんは誰ですか？」



■ディナーセッション



WACATE 名物のディナーセッション。

セッションと聞いて緊張している初参加者達。

いえいえ、普段はセッションやワークショップであまり参加者と交流できない実行委員プレゼンツの夜の宴です♪

●「うえだ・おうみのオールナイトニッポン！」

今回はうえださん、おうみさんがパーソナリティです。

特におうみさんは猫耳と尻尾コスプレ♪

(可愛すぎww)

WACATE 合宿参加時にアンケートを書いていたと思いますが、その参加者コメントを紹介し、パーソナリティのお二人がコメント(ツッコミ)を入れていくスタイルです。

前回のWACATE 合宿後の成果、今回の意気込みなどがインシヤルで発表されていくのですが、WACATE 参加率などから大体誰のコメントが分かります。最後には名乗り縛りまで出てきてしまって…「インシヤルの意味ねーよ!w」という感じに。毎回面白いコメントで楽しませて貰っています!

●刺激が欲しい貴方に「Venus」♪



先ほどの参加者コメントに、刺激を求めて WACATE に参加した人がある…

その言葉を合図に流れ出す軽快な曲と共に登場したのが、WACATE のタッキー&翼こと、スター☆と澤田さんによる燃えて「Venus」♪

キレのある振り付けも完璧!

合宿終了後も脳内リピートした参加者も多いはず!! (≧▽≦)

毎回クオリティの高いダンスを披露してくれるのもディナーセッションの楽しみのひとつです。

●「いせりんの質問コーナー」

いせりさんの独特なトークで展開していく質問コーナー。淡々と…淡々と…味のあるキャラクターっていいっすねw

次回もバージョンアップしたトークに期待です!

●「大抽選会」

前回(WACATE2011 夏)の合宿で活躍した抽選クンが再び参上!!

今回も豪華な品々のオンパレードでドキドキの抽選会。

がっ!参加者がドキドキしたのは抽選だけではなく、そのプレゼンターの姿w

今回はなかさや姐さんの黒のドレッシーなチャイナ姿♪



ズサッとやや引き気味に恐々と賞品を受け取る参加者。「要らないの?」と迫る姐さん。

楽しい楽しい抽選会でした♪

後半はいつも通りのじゃんけん大会での賞品獲得です。じゃんけんの厳しさに崩れ去る参加者多数。半年掛けて修行しないとダメですかね?

大盛況のうちにディナーセッションの終了です。

次はテスト魂熱く白熱の夜の分科会♪

■夜の分科会

今回は事前に用意されていた、以下の4テーマ。

○初心者さんいらっしゃい

(モデレーター:KENさん)

○ソフトウェアテストの「裏鉄則」を考えてみよう!

(モデレーター:バグ票ワーストプラクティス検討プロジェクトメンバー)

○テスト☆素振り▼をしていますか？

(モデレーター：yokさん)

○テストいらない、証明できれば問題ない、証明開発をメタ証明

(モデレーター：kyon_mmさん)

これに飛び入りで、

○マリオチャート分科会

(モデレーター：Unityさん)

を加え全5テーマが揃いました。



参加者はディナーセッション後、売店で購入したお酒やおつまみを片手に、夜の分科会会場 (VIP ルーム) へ終結。

張り紙に書かれた各分科会の場所へ座り、21:20 頃からスタートして 23:00 まで、熱い議論を交わしました。

実行委員による解散宣言がなされ、一旦部屋に戻った後も、有志メンバーによる夜の分科会第2部が参加者の部屋で行われました。315号室では様々な分科会があったようで、初心者さん、テスト再定義、探索的テスト、武道とテスト等など、大所帯だったみたいです。最終的に終わったのは2時くらい？夜更かしした反動で眠気眼の2日目のセッションを迎えるのも、WACATE 合宿の通例となりつつありますが、翌朝に支障をきたさない程度で頑張りたいですね。(中々難しいですが)



<2日目>



■セッション2

「ISSREに参加してきた！」

智美塾一号生 坂 静香氏、小山 竜治氏

今年11月29日(火)~12月2日(金)の4日間にわたって、日本(広島)にて開催された「ISSRE 2011」に智美塾塾生として、坂さんと小山さんが参加してきた体験談をお話されていました。

(ISSREと書いてイズリと読むそうです)



○智美塾とは？

智美塾とは、吉澤塾長指導のもと、塾生たちがみずからのテスト開発方法論を目指して、日々激論を交わす私塾です。最近はテストアーキテクチャ設計という考え方を示したりもしています。

○ISSREとは？

ISSREとはInternational Symposium on Software Reliability Engineering (IEEEソフトウェア信頼性工学国際シンポジウム)の略称のことで、IEEEが主催しています。ODC (Orthogonal Defect Classification) 分析のRam Chillarge氏やIEEEの偉い人が参加していたり、ICSEに次ぐ大きなシンポジウムなのだそうです。

○何故お2人が参加したのか？

その大きなシンポジウムに智美塾としてInSTAというテストアーキテクチャのディスカッションをすることが決まっていたようで、そこで外国の方を交えて智美塾一号生も議論をするために参加すべし！との塾長のお達しがあったようです。

○InSTA とは？

InSTA とは International workshop on Software Test Architecture の略称です。

日本だけではなく、海外でも論じられているソフトウェアテストアーキテクチャですが、海外では主にテストシステムアーキテクチャ（特に自動化）のお話が多いとのこと。

○実際にどんな発表があったのか？

全編英語による発表&ディスカッションです。

とにかく登壇者の発表を大人しく聴いているだけでは終わりません。話の途中であっても質問が飛び出し、参加者同士での議論にまで展開するほど、型にはまらない熱い議論が交わされたようです。



InSTA のプログラムとしては、以下の通りです。

- ・「テストアーキテクチャ設計について研究者から見た視点についての紹介」西さん
- ・「形式手法を使った自動デバッグ手法の提案」法政大学の劉先生
- ・「組み込みオープンソーステストの要求仕様変更による信頼性評価」山口大学の田村先生
- ・「記法に基づいたコンパイラテスト」独 SIEMENS 社の P. V. R. Murthy 氏
- ・「テストアーキテクチャ設計についてのディスカッション」吉澤塾長

信頼性に特化した話かと思いきや、ソフトウェアの不具合について議論がとても活発だったようです。NASA などのミッションクリティカルなものは品質や信頼性が重要で、その事例などを聞いたり、とてもいい経験をされたそうです。

○参加されたお2人のメッセージ

【小山さん】

- ・今回は広島市立大学の 大場先生の引退もあって、日本（広島）で開催されましたが、これは稀なこと。
- ・今回は日本開催ということもあって翻訳も整備されていました。

・海外の方との交流を通して、世界の情報に触れるチャンス！

- ・次回の ISSRE は 2012 年 11 月 27 日～30 日で、米国テキサス（ダラス）開催予定。

・テストや品質に関する国際イベントということでは、来年か再来年あたりで ICST（International Conference on Software Testing）の日本開催があるかも？

【坂さん】

・英語がしゃべられなくても、身振り手振りでどうにか伝わるものです。日本で開催されているチャンスには積極的に出しましょう。

全編英語ということで、ハードルが高そうに聞こえ、重い腰が上がらない人もいると思いますが、海外での動向を知る良い機会と捉えて積極的に参加してみようというのが熱いメッセージでした。（単語レベルからでもどうにか通じるころはありそうですね。）

特に日本での開催の場合は、翻訳があったりすることもあるので気後れすることなく、一回り大きなコミュニティに飛び込んで、積極的なコミュニケーションを取ることが大事です。

■ワークショップ2

「お絵描きコミュニケーション

—お隣さんに伝えたい」

中野 さやか



1 日目のワークショップ「お隣さん」は誰？—インプット、アウトプット、テストプロセスから整理してみよう」に続いて、今回もお隣さんを意識した伝え方（お絵描き）について考えるワークショップです。

普段の業務でお絵描きをするのは、どういう時でしょうか？またそれは何故でしょうか？

何かアウトプットをする時、人に分かりやすくするために文章ではなく絵で伝えたり、自分の思考を整理するために絵で表したりします。また文書が分散している場合は、何処に何があるのかを整理するためにもお絵描きをすることがあります。これらは文字による理解より、絵(図)の方が脳の処理能力(理解力)が早いからです。

文章だけのドキュメントは読むのも理解するのも時間がかかります。また欲しい情報が何処にあるのかパッと見て判断するのは難しいです。そして後々思い返すのにイメージするのは絵(図)であり、印象に残るのも文章ではなく絵(図)だったりします。

人にわかりやすく伝える為には、全体像を捉えて俯瞰し、物事を抽象化することがポイントとのことです。

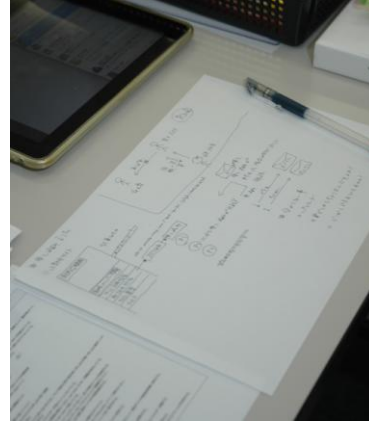
これらを踏まえてワークショップの開始です！
岬伽哩さんは社内勉強会の受付システムの近日オープンを控え、WACATE-Corp. テスト部会のサイトにある受付システムについて勉強することになりました。昔の資料をもとに問題点や不明点の洗い出しをし、1時間後に先輩に確認する段取りになっているシナリオです。
今回はあまりアップデートされていない資料をもとにお絵描きをしながら情報を整理し、問題点を洗い出すのがゴールです。



お絵描きのポイントは6つ。

- 1: いきなりすごい絵を描こうせずに、四角や矢印でシンプルに表現してみる。
- 2: ラベルをつける。先ほどの四角や矢印が何を表しているのかを示す。
- 3: タイトルをつける。何を表した絵なのかを書きます。
- 4: 言いたいこと、見て欲しいことを強調する。
- 5: 不要な情報は省略する。
- 6: 意味合いの同じもの異なるものを明確に分ける。

ワークショップでは、先ほどのお題をもとに個人ワークでA4用紙に各自お絵描きをします。



その後のグループワークでは、右隣の人を先輩に見立てて個人ワークの成果を発表します。発表後、班の中で疑問や指摘などをディスカッションする流れです。



お絵描きは人それぞれの観点から、同じ題材であっても表現が異なって面白い(興味深い)ですね。画面構成と機能で絵を分けたり、実装しやすさを考慮して静的(画面構成)か動的(処理)かで分けて表現するなど、様々でした。

人型やメールのアイコンを描いていたり、色ペンを駆使してオリジナル3色ボールペンで表現するなどの工夫が見られました。



最後に全体を通して、各班であがった素敵な工夫を挙手で発表！色んな人の手が挙がっていましたね。面白い工夫はこんな感じでした。

- ・(情報を整理する際) 機能と目的を明らかにするため5WIHでまとめた。
- ・(作図時間短縮のため) メールアイコンを一筆書きで表現しました。オススメですw
- ・仕様にロッドNoをつけて、作図にもNoを振ると何処に書かれていた情報が追いやくなる工夫。

何を表現するかその目的によって、どう描いたらよいか絵の描き方を選択し、わかりやすく表現しましょう。

絵(図)を1つで表現しようとせず、分けて詳細に落とし込むことで、欠陥が見えてきます。

世の中にある様々な技法のいいとこ取りをして、新しく使いやすい表現方法を模索してみましょう。

(マリオチャートもその1つですよ)

絵だけに限らず、とりあえず描いてみよう！やってみよう！そして何かに気づいたのなら、工夫をしてみましょう！その気づきこそ、貴方のオリジナル技法が生まれる瞬間かもしれません。



休憩時には交流を深める立ち話なども。

■グループディスカッション 「テスト道ワールド」

上田 卓由



Beizer のテスト道をテーマにしてワールドカフェスタイルでディスカッションを行う、WACATE 初めての試みです！

事前に Beizer のテスト道の各フェーズに対して、自分が何処のフェーズに立っているかを考えてくる宿題付きのディスカッションです。

(実際は考えておくディスカッションしやすくなりますよーというもの)



某予習会でも期待が一番高かったセッションでもありました。今までのディスカッションは班の中(閉じられた空間)でのワークショップが多く、合宿終了後の復習会等で各班の情報を共有したりするものでした。

ワールドカフェスタイルを取り入れることで、ディスカッション中に、様々な班のやり取りを見ることができ、参加して発言することも可能です。

ワールドカフェでは、人々がオープンに話し合います。対話形式でモデレーターは存在せず、席を3ラウンド以上は移動します。1ラウンド当たりの所要時間は20分程度です。

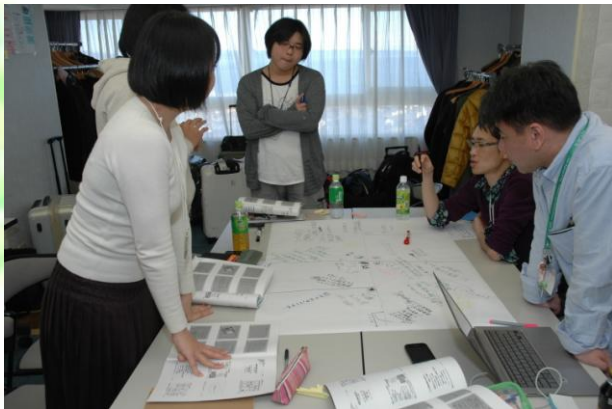
今回のディスカッションでは、オリジナルのワールドカフェルールで行いました。

モデレーターを置き、議論形式で2ラウンド行います。

まずは練習ラウンドとして、現在の班メンバーでフェーズ0~4の何処に自分がいるかを模造紙に書き込みます。職場で感じるフェーズと、自分の考えているフェーズのギャップなどが書かれていたり様々です。

次に第1ラウンドでは、フェーズ2からフェーズ3に行くにはどうしたらよいかを話し合いました。

班によっては付箋で整理しながら書き出していたり、模造紙に思いつくままにマインドマップの様に書いている班もありました。



数分間の休憩を挟んで、班毎にモデレーター（1名）を残して席替えです。
休憩の間に各班を回って途中経過を観察する参加者や、何故か書き込みをしていく参加者が続出！

1日目のポジベセッション（1回目）で座った班になったの最終（第2）ラウンドです。
モデレーターは第1ラウンドでの成果（流れ）を解説します。終わったところで、この新しいメンバーで続きを考えます。またフェーズ3からフェーズ4に向かうには何が必要か？を話し合ったりもしました。

最後に2ラウンド全体を通しての気づきがあったか何人かの方に発表をしていただきました。

グループディスカッション終了後、次のクロージングセッションが始まるまでの休憩時間では、各班の成果物（模造紙）が廊下に貼り出されていますね。



マインドマップ形式に書き出した、悪戯書きつきのうちの班はある意味で目立っていました！w（読みやすいかどうかは別の話w）
議論の白熱振りは伝わったかと思えます！

次回はお隣さんを意識してアウトプットしたいですね。…て、1日目のセッション成果は何処に行ったのだ。orz

この各班の成果物についてはWACATE-SNSのコミュニティにて班毎に画像がUPされていますので、合宿中に見られなかった人は、是非チェックしてみてください♪

■クロージングセッション

「現場主義が道を拓く」

日本電気株式会社 菅田 直美氏



ご自身の所属、および品質会計の書籍についてご紹介があったあと、本題に入りました。

◇2つの組織の比較から
ある組織Aと組織Bの話。
開発条件がよく似ているのに、成果に大きな差異が出る。
どちらも品質会計を適用しているし、CMMIレベル5達成済み。

プロセスデータの比較をすると、全抽出バグ数、上工程抽出バグ数、テスト工程抽出バグについては、Bのほうが若干少ない程度。
しかし、レビュー工数とテスト工数、テスト項目数に大きな差が出る（AはBの2倍）。

そして、**実際（出荷後の品質）は、組織Bの品質が組織Aより2倍以上に悪い。**

xxx技術を導入しても、同じ結果は出ない！なぜでしょう？

「やったから」といって、良くなると思ったら大間違い。

◇ソフトウェアを取り巻く状況

テストは、最近アクティブである。なぜなんだろう？

改めて言うほどのことではないかもしれないが、ソフトウェア工学って言葉はいつ生まれた？
(回答)1968年。50年たっていない！！
たとえば建築物って、何年経ってる？それに比べ、ソフトウェアは歴史が浅い。

例えばテレビの工場といったら、ハードの工場じゃないの？
しかし今、ソフトウェアを頑張らないと、ダメ。差別化にソフトウェアが必要。
ソフトウェアが社会インフラになっている。
歴史の浅い我々の領域が産業の中心になっている。
GDPでいうと、500兆のうち、ソフトウェア業はたかだか15兆。ただし、組み込み系のソフトが含まれていなかったりする。

◇品質会計が生まれた背景

その昔は、磁気テープから紙に出カ→その紙をチェックしていた。
(予稿集に掲載された、机の左右に書類が高く積み上がっている状態の絵を示して)この図、漫画だけど、リアルなのよ！(会場内に笑いが起こる)
ダンプとトラブルの山に埋もれ、負のスパイラルのままでは事業継続できないとの思いから、現場が考案し、発展したそうです。

本を書くと、いろんな方がいろんなコメントをしてくれる。今日来ている奈良さんからも、「なんで品質”会計”にしたの？」と問われた。
そのとき、「入社したときからそう呼ばれていたのよ・・・」と答えたが、
飯塚先生から「理由根拠を説明する”技法”なんだ。と説明するんだよ、それは。」と教えられた。

◇ソフトウェア品質会計とは？

「品質」が作り込まれたことを、確かな根拠を持って説明するソフトウェア品質管理手法。
バグがどれくらい作り込まれていることをどうやって精度よく見積もるか。

今回は上工程品質会計の話。
二種類の工程(バグ抽出工程(抽出するところ)と作りこみ工程(そのバグはどうしてつくりこまれたか))
エンブラ、組み込みなど、領域には影響しない。

◇品質会計の発展の歴史：3段階

第1期 テスト中心のバグ叩き出しによる品質向上
(いつまでやるのよ#と思うもの)
第2期 上工程でのすばやいバグ抽出による品質向上
(レビューでがんばる(品質をあげる))

第3期 バグ分析と1+n 施策にもとづく同種バグ抽出と開発プロセスへのフィードバック
(今)

◇品質会計の効果

第2期の時点で出荷後バグは1/20以下に。
上工程バグの抽出率は8割を越えるように。
CMMIレベル5達成プロジェクトより、バグ数が明らかに違う！

◇上工程品質会計の特徴

レビューを中心に行っている。
作りこんだバグは次の工程で抽出しよう！
しかし作りこみ工程の分析は難しい。
ほぼ8割以上が「コーディング工程」とされている。
実際は、基本設計、機能設計、詳細設計なのだが、正しい指摘が多くない。
本来はどこなの？各工程が、どこまでやることなの？がわかっていない。
組織として定義がないと決められない！！

◇帰帰型バグ予測モデル

過去のデータをつかって統計的に予測。
=過去と同じように開発をした場合、こうなる、という予測。
違う開発であれば、予測できない。
=似たような開発の過去データを参考にする。

◇上工程品質会計の流れ

作り込み工程別にバグ分析を行う→上工程品質判定表を作成する。
レビュー工数とレビューによる抽出バグ数の、目標値と実績値を算出する。
目標に対して実績がどうか？を判定表から見出し、目標どおりでない場合、バグ目標値の見直しを行う。
移行判定をしたうえで次工程へ。

こういうものは、システムテストまでいかないとわからない。
それが、設計の段階から分析できることが、品質会計の大きな特徴。

上工程のバグ定義として、誤字脱字をどう扱うか？
については、
理解を間違える場合はバグとして扱う。
(その後、ケーススタディとして具体例で解説。)

◇上工程で「現場へ行く」ことの重要性

ちゃんと現場にいったら確認しましょう！
レビュー工数が多いと思ったら、実は新人が大勢参加していた。
こういうことは、出ている数字だけで判断していたら、わからない。

もし現場に行った結果、本当でなければ、品質判定表の結果を採用しなくてもよい。

◇現場主義ってなんだろう？

三現主義。机上の空論ではなく、「現地で、現物を見て、現実を知る」ことにより、心の因果関係を考えることに意味がある。データだけで考えない。

◇先ほどの2つの開発組織の成果比較

Bの組織は、基準値になると、テストを終わらせてしまう。1+n 施策成功率が、明らかに違う。いつまでも平行線。
しかし、「なんで？」って、不思議に思わない・・・

何のためにやらないか、をちゃんと理解しないとダメ。**何でやっているかという、いいものをつくろうとしているんだよね？**

この結果でいいんだろうか？と思ったら、違う行動が起こる。

データばかり見ていると、事実に基づかない。
Bの組織の文化を(品質中心の組織文化に対し)「丸投げ文化」と呼んでいる。

バグをカウントしていただらいでしょ？って思ってしまう。

◇「品質会計しています」とはどういうことが

データをだすのはスタートラインでしか無い。
なぜそうなの？が説明できなければならない。

◇まとめ

銀の弾丸はない。しかし、道はある。
だいたいこれやったらいいよね？というツールもできてる。
うまく組み合わせたら、道はあるよ。

ちゃんと現場主義、事実に基づき、何をやらなくちゃいけないんだろう？を考える。自律する。

なんのためにやっているの？を常に考えて。
成果がでていなかったら、なんでだろう？と思う。
それを繰り返して！

◇セッション感想

菅田さんは、WACATE のクロージング講師の候補として毎回挙がるほど実行委員一同が是非ご講演いただきたいと思いつづけてきました。今回念願叶ったことがとても嬉しかったです。
現場で起こっていることをきちんと見ることの大切さ、なぜ？何のために？を考えたいので、きちんと説明できるようにすることの大切さをお話してください、改めて意識していこう、と思いました。

■クロージング

「二日間の終わりに」

澤田 悠介



実行委員長の「☆」こと山崎さんからご挨拶。

この2日間、いろいろ刺激を受けたと思う。
ドメインの違う人同士で、2日間議論をする機会はなかなか無いと思う。また、WACATE はモチベーションを得るための機会でもあると思う。
今後、(WACATE で得た)いろいろなことを活用して行ってほしい。

(勉強をしていくと)視野は広がっていく。テストだけではとどまらない。品質、コーディング、気になることは多い。加速して欲しいが、うまくいかない部分も大きいと思う。

また、会社の文化を変えるのは、一足飛びにはいかない。長い年月がかかることもある。
自分自身の成長は加速しつつも、結果がでないことについて、焦らないで。
地道にやるとよいと思う。

これまで WACATE 続けてこられたのも、奈良さん、菅田さんはじめ、先輩方のお陰。とても感謝している。

また、実行委員の面々は、昼夜を問わず働いた。もし皆さんが楽しんだと感じていただけたら、拍手をいただきたい。
(皆様拍手をいただき有難うございます☆)

ぜひ、2日間の経験を活かして頑張ってください！！

そして、ポジションペーパー3賞の発表！！

□MAP (Most Accelerating Paper) 賞

山田さん！！

加速の度合いがすごい！！と、実行委員の票がダントツ1位でした☆

「これから頑張っていきたいです！」

□BFP (Biased Favorite Paper) 賞

高橋さん！！

誉田さんより、選考理由

入社した時から品質保証部だった
そのころを彷彿させて、思わず入れました
「まさか私が受賞できるとは思わなかった。
今の思いを綴った。誉田さんと同じということで、
私もがんばろうと思う。」

□BPP (Best Position Paper) 賞

藤崎さん！！

こちらも参加者得票ダントツ1位でした☆

「ホントですか？」

嘘ついてどーするんですか？www

参加者からの選考理由

ご自身の主張が明確に絵に現れていた
もっと訊いてみたい。この先楽しみ。一番加速し
ている
など・・・

◆そして最後は恒例の~~~~

「一緒に2日間すごせてとてもたのしかった！

選考していただいて嬉しい。ありがとうございます！

入社してからずっと頭にあったものを図にした。
まだできたばかり・・・できていないかもしれない。
分科会を通じて自分の視点からみえない意見がたくさん出た。

これからも楽しみにしててください！」

最後にうえださんプレゼンツの振り返り動画を見て、二日間を振り返って、熱い熱い、WACATE 2011 冬は終焉となりました。

実行委員の熱い想いと参加者の熱い気持ちでできたあがったワークショップは、今回もとても素敵な二日間として皆さんの心の中に残るでしょう。

お疲れ様でした！



僕らの道を行こう！

We are accelerating!!
See you next "WACATE"!

JaSST'11 Kyushu Report!!

◆◆◆JaSST' 11 Kyushu ~テスト仲間を増やそう!~

九州各地で行うのが JaSST Kyushu の特徴♪
今回は…2011年11月25日(金)に福岡システム LSI 総合開発センターにて開催されました。



◆◆◆チュートリアル

「実践! CEGTest で原因結果グラフを作ってみよう!」

加瀬 正樹 氏

☆チュートリアル概要

論理関係を検証するテスト技法である原因結果グラフ。そのグラフやディシジョンテーブル作成を支援するツール「CEGTest (セグテスト)」を実際に触って、仕様や設計の分析、グラフの作成を実践してみよう。

ちなみに、今回のチュートリアルで触る CEGTest は、JaSST'10 四国(「原因結果グラフ技法を学んでみよう!使ってみよう!」)でも取り上げられたツールですが、そこから1年以上の時を経て、かなり改良をされているようです。

■原因結果グラフとは?

Cause-Effect Graph (CEG)

複雑な仕様を持つテスト対象の「入力」や「イベント (=原因)」の組合せと、「出力 (=結果)」との論理関係をグラフ化して、ディシジョンテーブルを作成する組合せテスト設計技法のこと。

入力条件が複雑な関係性を持つテスト対象に、この原因結果グラフ技法を適用し、論理関係が正しいことを確認する効用があります。

■原因結果グラフの特徴からの気づき

図式化して網羅的なテスト条件を作成できたり、仕様の矛盾を見つけたりがしやすい長所がある反面、仕様からグラフ作成が難しかったり、グラフからディシジョンテーブルへの変換が難しいという短所もあります。

この短所をどうにかできないだろうか?と考えた加瀬さんが開発したのが「CEGTest」です。

■CEGTest とは?

ブラウザで操作可能な原因結果グラフ描画ツール。また、グラフからディシジョンテーブルを自動生成します。まさに多くの人が挫折するポイントを自動生成してくれる便利なツールですね。

<CEGTest には、こちらからアクセス!>

<http://softest.cocolog-nifty.com/labo/CEGTest>

■原因結果グラフを描いてみる

原因結果グラフの解説後、実際 CEGTest を触って基本操作をおさえます。

その後練習問題を見ながらネット接続してブラウザ上で実際原因結果グラフを描いていき、最後に演習問題(全3問)を解きました。

詳しい操作方法について、チュートリアル参加者の特権ということで、ひ・み・つ☆

1年前に比べてかなり操作性が良くなっている

(お隣の受講者:談)とのことでした。

■まとめ

原因結果グラフは「論理関係を見やすくする」テスト技法のひとつであり、仕様・設計の整理をするのにも有効です。

CEGTest はグラフの修正、追記、見直しが何度も可能なので、色々考えてまずは描いてみましょう。テスト技法がその技法が有効な場面で使わないと、期待する効果は得られません。

CEG 以外のテスト技法の使い方も是非振り返ってください。というお話でした。

■感想

初めて CEGTest に触ってみました。

今回のチュートリアルでは、ブラウザでの操作なのでネットに繋がる環境で…というお話だったのですが PC が不調という残念な環境下で受講。

ちなみに **CEGTest はダウンロードしても利用可能な**ので、事前にダウンロードしておけば良かったです。(皆さんはこの失敗で学んでくださいw) **ネットに繋がらない環境で使いたい場合には、ダウンロードが是非オススメです。(絶対!w)**

さて、CEGTest は加瀬さんのスタイリッシュなプレゼンと配布資料が分かりやすく、私自身は演習2まで問題なく作成できました(3は時間切れ)。一見難しいと思われがちかもしれませんが、個人的には、シンプルな原因結果グラフを作成するには、**中間ノードの作り方がポイント**のような気がします。原因結果グラフの正解は1つではありません。描けば描くほどに自分なりの分かりやすい原因結果グラフがスタイリッシュに出来上がると思います。是非いっぱい描いてみてください♪

◆◆◆オープニングセッション

オープニングは何と！辰巳さんの登場です！！JaSSTの紹介、およびJaSST'11 Kyushu各セッションの紹介がありました。「九州は今年(JaSST'11)のアンカー。有終の美を飾りたい。」
「(JaSST'11 Kyushu各セッションを通じて)是非、いろんな気づきを得て、職場で活用いただきたい。楽しんでいってほしい。」
というご挨拶がありました。

◆◆◆基調講演

「山陽新幹線の安心・信頼の確保と、九州新幹線全線開業への対応について」
尾縄 大輔 氏

☆セッション概要

ATC(自動列車制御装置)やCOMTRAC(運行管理システム)などの安全性の高いシステムに守られて運行している山陽新幹線の更なるハイレベルな安心・信頼を目指した「リスクアセスメントに基づく取り組み」、そして九州新幹線全線開業に伴う、「相互直通運転に対する万全を期した取り組み」についてのお話でした。
新幹線を安全に運行できるように、ATCやCOMTRAC、フェールセーフ(=エラー発生時に停止)等の**安全性の高いシステムを利用していても、最後の判断は人**です。指令員がダイヤを把握していないと、現場やお客様に説明ができないことから、全てをシステムには任せず、あくまで人の判断を入れます。人は**エラーをする動物である**ことを認識しヒューマンエラーを防止する為の工夫が紹介されていました。

☆セッション感想

リスクアセスメントに基づくマネジメントとしては、現場の安全に対する意識と経営幹部が認識している安全に対する意識のずれがあるのでは？と始めた、安全に対する「**各現場社員の安全報告**」や「**気がかり事象を安全ミーティングのディスカッションでリスク抽出**」。抽出した**リスクに点数付けてリスクポイントの高いものから対**

応するなどの取り組みというのは、ソフトウェア業界でも重要ですね。

どんな小さな気がかりでも現場や経営の垣根を越えて複数の目を通したオープンなディスカッションをする為には、**ミーティングの司会カト、話し合いをしやすい雰囲気づくりがポイント**のようです。

九州新幹線全線開業に向けて、一つ一つのミスを防ぐため、ヒューマンエラー対策として**ルール手順の遵守・指差確認やダブルチェック**の重要性も説明されていました。仲間や相手の動きを知り共に考える(=チームで動くことの意識)で異常時の不安を解消する。その為には、**普段からのコミュニケーションやディスカッション、社員同士の連携はとても重要である**ということを再認識しました。ちょっとした些細な気がかりであっても、ちゃんと**仲間とコミュニケーションは取れていますか？**

◆◆◆ポスター発表

九州恒例のポスター発表♪
チュートリアル・シンポジウム会場のすぐ隣の会議室にてポスターが展示されていました。

- 「コーディングとテストの並列開発手法の実現のための一考察」
大久保 暢人 氏、松岡 慎吾 氏、喜多 義弘 氏、片山 徹郎 氏
- 「安全性確認のための根拠記述モデルの提案」
太田 清隆 氏
- 「IGDA 福岡支部〜ゲーム産業と ICT 産業とクロスボーダーを目指して〜」
金子 晃介 氏
- 「Fukuoka DSL Night」
船津 文弥 氏、部谷 修平 氏
- 「iBizQ(スマートフォン・ビジネス交流会)：スマートフォンを中心としたビジネス・マーケティングとプログラミングの交流会」
藤田 義生 氏
- 「データベースのユニットテストをしよう！」
清末 直 氏
- 「Q魂」
久住 憲嗣 氏

ポスター発表に合わせて、こちら恒例の壇上発表！4分間でのアピール発表です。

コミュニティ活動報告や大学関係での発表が多く、今年巡ってみた他のJaSSTと比較しても、学生の参加が多いように感じました。九州の学生さんはモチベーションが高く、アツいんですね！(WACATE冬合宿に参加しちゃうくらいアツいですw)

◆◆◆招待講演

「テスト自動化の前に抑えておきたい3つのポイント」

湯本 剛 氏

■テスト自動化の前に考える3つのポイント

1. テスト自動化で工数削減？
→テスト自動化の目的は何ですか？
2. いきなりスク립ティングしてませんか？
→テスト開発プロセス
3. アプリケーション開発の時にテストのことを考えていますか？
→自動テストとアプリケーション開発相乗効果

■テスト自動化で工数削減？

「テスト自動化して嬉しい効果は？」というフレーズを聞いて、真っ先に考えられるのは**工数の削減**という言葉が多いですが、果たしてそうでしょうか？

ということで、某会社にて試算した結果、実際は「**自動化するためのスクリプト作成→テスト実施→結果確認→スクリプト修正等**」の工数を合わせると、**手動テストの4倍は工数**が掛かっていたそうです。**テストを自動化する場合には、4回以上は実施するテストケースを自動化するのが効果的**との検証結果でした。

テストを自動化する時には「自動化に向いているもの」と「自動化を避けた方がよいもの」を考えることが重要です。

スクリプトの利用回数が多く、作成時間が短いものが自動化に向いています。

また自動化するスクリプトが複雑だと、スクリプトのテストが必要になる為、できるだけ**シンプルである必要があります。**

■自動化のメリットは？自動化の目的？

手動で時間が掛かっていたテストを自動化することで「**テストできる量が増加し、網羅率が上がる**」ということです。そうすることで、理想とするテスト量でのテスト実施が可能になり、**ソフトウェアのリスクが低下**します。

自動化した時に工数削減にすぐ結びつかないのは、手動ではできなかったテストを自動化しているからということになります。

【今まで出来ていなかったテスト量で、カバレッジが向上する】ことこそが真の効果なのです。

自動化の目的とは、目先のテスト工数を削減することだけではなく、**ソフトウェアの品質を上げることで「手戻りコストを削減する」**ことにあります。

■いきなりスク립ティングしてませんか？

テストを自動化する時に「**自動化すべき箇所の特**定」や、「**自動化によって発生するリスクを明らかに**」していませんか？**自動テストにも設計が必要**なのです。

手動で実施していたテストを自動化した場合に、考慮しないといけないことを考慮しないで実施すると抜け漏れが発生し、手戻りの元になります。自動テスト設計に必要なのは、「シナリオフロー表」「チェックポイントリスト」「スクリプトデータテーブル」の3つです。

<シナリオフロー表>

シナリオを作るコツとしては、2つ。

- ・いきなりビジネスフローから作成するのではなく、「**基本→リスクの高いもの**」というように**拡張させて作る**。
- ・自動化するにあたって、**どれを変数化するか？1回だけのスクリプトにするか？の基準を決める**。

<チェックポイントリスト>

手動でテストする場合は人が動かす為、テスト実施後の結果確認方法はなんとなく書いておいても問題にはならないですが、**機械にテストをさせる場合には、より詳しくチェックポイントを決める必要があります。**

<スクリプトデータテーブル>

テストの入力データをスクリプト内でパラメータかしてデータパターンの変更のみでテストを実施する場合に効果が出ます。

その効果については、手動時に使うテストケースを用いて、**本来必要なものを整理して記述しておく**と、**テストスクリプトをどう作るか？何が繰り返しの自動化に向いているか？**が見えてきます。**テストケース条件と入力値をみて、繰り返しの自動化に使えるかを見ましょう。**

手動テストの場合は仕様項目だけでなんとなくテストができるのに対して、自動テストをする場合には**テストケースを一度考えてから自動化**するために、**工数が掛かってしまう**訳です。直交表を使うようなテストは自動化しやすいとのことです。

データパターン作成のステップ4つ。

1. テスト条件となる仕様項目を抽出
2. テストケース設計をする。
(この時ダメなテストケースとしてよくある期待値の記述は「設定値が正しいこと。」というパターン。…あるあるですね。)
3. 自動テスト用の見直す作業
(手動テストの流用も可能)

4. 本来の自動テストで行う設計 (スクリプト作成時の実施でも可)

■アプリケーション開発の時にテストのことを考えていますか？

例えば開発対象のソフトウェアがバージョンアップすると動かなくなってしまうケースです。作り手がテスターと異なる場合に、仕様変更なしに作り変えてしまうなど、ミスコミュニケーションが起す畏です。

「テストを考慮して開発なんてしてられない」という開発者の声も聞こえてきそうですが、**開発に掛かる費用のうち約50%弱がテストである**という調査結果もあります。

テストがボトルネック！ということであれば、テストを意識した開発には効果大なのです。プロジェクト全体を通して、**テストを意識した活動をすれば、自動テストの問題も解決でき、開発の流れのパラダイムシフトを起せる**のです。

■まとめ

1. テスト自動化の目的はコストダウンだけではなく、**手動テストでできなかったテストをカバレッジすることで品質に貢献すること。手戻りコストを削減すること。**
2. 自動テストはいきなりスクリプティングするのではなく、**自動テスト設計をする必要がある。**
「シナリオフロー表」「チェックポイントリスト」「スクリプトデータテーブル」を考えてみよう。
3. テストを意識した自動テストとアプリケーション開発をしよう。テスト考えずに自動化をしようとすれば痛い目に遭います。

■感想

テスト自動化と言われて真っ先に浮かぶのは、手動テストを自動化できるから工数削減！の文字。ですが、実際はスクリプトを作成したりメンテナンスしたりの工数を考えると、そこで手が止まってしまうことが多いと思います。自動化に重い腰が上がりえないのはこの辺だと思います。

開発プロセス全体を通して工数削減の憂き目にあいやすいのがテストですね。「テスト工数削減→カバレッジ低下→品質低下→手戻り発生→修正→テスト再び！」という、この負の連鎖に立ち向かうために、ここはひとつ自動化できるところを探し当て、自動化してみる価値はあるのではないのでしょうか。

ソフトウェアが生き続ける限り、テストは存在します。長い目で見てテストを自動化するには、き

ちんと設計して実施してみる必要がありそうですね。

◆◆◆クロージングセッション

実行委員長の片山先生よりご挨拶。

そして、次のJaSSTへバトンが渡されるように、JaSST'12 Tokyoの告知がありました。また、九州組み込みソフトウェアコンソーシアムの紹介がありました。

情報交換会は会場をイタリアンレストランに移して立食パーティ☆
講演者や発表者に質問したり、意見交換したりと、和やかな中にもアツい語らいのある会でした。

▽おまけ▽

会場である「福岡システムLSI総合開発センター」の向かいにある「福岡タワー」は夜になるとこんなライトアップが！癒されました〜♪



書いた人：ぼんぼん&すねーく

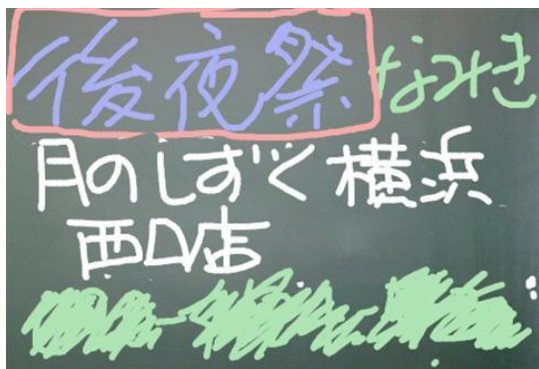
WACATE 2011冬 後夜祭

熱い冬の二日間の打ち上げ！

後夜祭を本当にやることになったのが1週間前。そんなドタバタから始まった後夜祭をレポートします。

★スムーズに移動

WACATE 恒例のホテル入り口での写真撮影後、手早く駐車場脇に集合し、毎回のごとく、三浦海岸駅から横浜に参加者全員(28名)で移動です。



～みんな集合♪～

席は定番のくじ引きです。シンプルだけど、さまざまな班の人とお話できるのがいい点ですね。

★カンパ～イ

乾杯の挨拶は、杉田さん。

カンパ～イ！

もう、これでみんなの会話(本気モード)開始です。WACATEに参加していると、みんなスムーズに会話が始まり盛り上がります。

★学生さん

後夜祭で初めて学生の方が参加してくれました。(九州からご参加とのこと。これから夜行バスで移動するらしい。若いってイイなー。)



～学生さんからのお話～

★ある意味ワールドカフェ？

2日間の振り返りを行う方々、BPP セッション発表者に直接お話を聞く人、今回の BPP 受賞者とお話する人、さまざまな人がいろいろな話をしていましたね。

自由に自主的に席を移動してもらって、さまざまな話があがっていました(ある意味ワールドカフェ?)



～楽しく会話中～

お店のご好意(?)で、予定より早めに入ることができ、時間もオーバーしてしまいましたが、新幹線で来ている人も遠い人も終わり時間近くまで楽しめました。

★最後に

参加者の方々のご協力、ディナーセッションでのアピール時間(実行委員のご好意でお時間をいただきました)などなど、WACATE のパワーでスムーズな後夜祭となりました。ありがとうございました。

書いた人: なみき

P. S. 幹事～ず、新メンバー募集中です。

Software Test Topics

当番：上田卓由 (Magazine 編集部)

こんにちわ♪
上田ですっ

早いもので、WACATE2011 冬が開催されてもう一ヶ月近く立ちましたねー。そして、一段落する間もなく、JaSST'12 Tokyo で WACATE セッションっす♪♪♪
そんな盛りだくさんの年末年始のなか、今月もお役立ち情報を皆様にお届けしまっすーっ♪♪♪

【イベント】JaSST'12 Niigata

<http://www.jasst.jp/attribute.html>

ソフトウェアテストシンポジウム 2012 新潟

開催日：2012年3月16日(金)

プログラム概要などのページはまだなく、今のところ準備中とのことですよ
ちょくちょくチェックしてみましょー

【イベント】第5回世界ソフトウェア品質会議 (5WCSQ) Award 受賞者 特別講演会

<http://www.juse.or.jp/software/391/>

日時：2012年1月27日(金) 13:00~17:10

会場：日科技連 千駄ヶ谷ビル 1号館3階講堂(東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11)

参加費：資料代として3,000円

募集人数：100名

募集人数は、100名ということですので、お申し込みお早めにご講演者とは下記のとおりとなっております。

- ・世界ソフトウェア品質会議の歴史と5WCSQの報告
講演者：野中 誠氏 (東洋大学 経営学部 経営学科 准教授、5WCSQ アジア・パシフィック地区 プログラム委員長)
- ・テーマ「Process Improvement using XDDP - Application of XDDP to the CarNavigation System」
講演者：古畑慶次氏 ((株) デンソー技研センター)
- ・テーマ「Utilization of Domain-Specific Knowledge for Quality Software Design」
講演者：飯泉紀子氏 ((株) 日立ハイテクノロジー)
- ・テーマ「Success Factors to Achieve Excellent Quality CMMI Level 5 Organizations Research Report」
講演者：誉田直美氏 (日本電気 (株))

【セミナー】テスト技法とテストケース演習：入門コース

<http://www.juse.or.jp/seminar/16058/>

日時：2012年2月1日(水)

対象：新入社員から2~3年目の技術者

会場：東京・日科技連東高円寺ビル

講師：奥村有紀子、堀田文明 (デバッグ工学研究所)

参加費：21,000円(一般) / 18,900円(会員)

同値分割、境界値分析、デシジョンテーブルについてのカリキュラム構成になっており、テスト技法に関する入門セミナーになっています。

【書籍】Testing Experience No 16 (December 2011)

http://www.testingexperience-shop.com/epages/61284435.sf/en_GB/?ObjectPath=/Shops/61284435/Products/16122011

今回のテーマは「The Future of Testing」です。

価格：8.00 €

【書籍】直線と曲線でデータの傾向をつかむ 回帰分析超入門

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4774149624/wacate-22/ref=nosim>

著者：前野 昌弘

出版社：技術評論社

ISBN-10：4774149624

ISBN-13：978-4774149622

発売日：2012年1月6日

価格：2,079円

データの分析に関する入門書籍となっております。後半は、実験計画法、直交表なども登場してきます。

【書籍】Rクックブック

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4873115337/wacate-22/ref=nosim>

著者：Paul Teetor

監訳：大橋 真也

翻訳：木下 哲也

出版社：オライリージャパン

ISBN-10：4873115337

ISBN-13：978-4873115337

発売日：2011年12月22日

価格：2,940円

オープンソースでフリーソフトウェアの統計解析向けプログラミング言語、及びその開発実行環境であるRの実用的、実際のテクニック集になります。

さて、毎月このSoftware Test Topicsでは、書籍をご紹介する際、品質やテストについてのものを選んでいましたが、ちょっと今回は視点を変えて、データの解析などについてまとめられている書籍をご紹介しました。

「お役立ち情報」をお届けするコーナーですので、ちょっと別な視点での書籍をもいいのかなと思いました。

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とかOFF会とか開催するんだけど掲載してくれない?」といったものでOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_ _)m

WACATE-Blog 出張所

◆WACATE 2011 冬！終了！

実行委員の皆が真剣に取り組み作ったワークショップはいかがでしたでしょうか？

正にエキサイティングなワークになったと思います。



ワーク中の実行委員の表情も真剣ですね。



◆そしてWACATEのあとは…

来たる JaSST' 12 Tokyo に向けて鋭意準備中！
WACATE 2011 冬が終わったばかりなのに、皆タフだね！



◆次のWACATEに向けての近況

現在の次のWACATEに向けての活動は以下です。

◆実行委員会ネタ

- ・オンラインにて振り返り中！
- ・JaSST' 12 Tokyoのセッションも並行して検討中♪

◆WACATE ネタ

- ・ManiaX vol.6 発行したよ！

…とこんなカンジです！

さあ、君もWACATE 実行委員会で一緒に加速してみないか！？



誉田さん、奈良さんと。

See You Next WACATE!

書いた人：コヤマン

開運

源太郎のソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	1月の運勢(1月7日~2月4日)
一水星	S38/S47/S56/H2	本命星と相性のため 運気は好調 だが、定位盤・年盤上で同会している星と相剋のために ケアレスミスが多くなるので注意 。じっくり落ち着いて丁寧な行動が吉なり。慌てると見えるものも見えなくなるので注意すべし。 短気は禁物と心得るべし!
二黒土星	S37/S46/S55/H1	今月は本命星と相性なれど坎宮に会しているために、 運気は低迷 するであろう。 物事が停滞気味 となるために、 苛立つことも多くなるであろう 。二黒の特性である地道にコツコツと、手抜きをしないことが、 良い結果を生む であろう。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	本命星と相剋のために、 停滞気味の運気 となる。 感情的にならず 、何事も 余裕をもって行動 することが肝要なり。年盤に同会している四緑の影響で「縁」に恵まれるであろう。ただし 争いごとが起こりやすい ので、注意すべし!
四緑木星	S35/S44/S53/S62	今月は本命星とは相剋だが、震宮に会しているので季節との相関も相まって、 運気は上昇傾向 になるであろう。震宮の影響で、 若さ・やる気が出る時期 なので、 急がずことを進める ことが肝要なり。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	年盤・月盤ともに本命星と相性とりなり、 運気は好調 なり。ただし 好調ゆえに忙しい毎日 を送ることになるために、 過労には注意 すべし。また巽宮の影響で 足元が不安定 なことがあるであろう。 余裕のある行動が吉 なり。
六白金星	S33/S42/S51/S60	今月は中宮に会しているため、 大きく動かない方が吉 。多くのものが周りに集まるであろう。ただし 玉石混淆 となり、 本質を見極めることが肝要 なり。一つずつ 誠意を込めて 対応することが、 解決の早道 と心得よ!
七赤金星	S32/S41/S50/S59	本命星と相性であり、乾宮に会しているために、 運気は好調 なり! ただし月盤上で、 暗剣殺 に会しているため、 注意 すべし。好調ゆえに 「攻め」に夢中 になると 「守り」が疎か になるので、時には振り返って 「守り」を固める ことが肝要なり。
八白土星	S31/S40/S49/S58	今月も引き続き 運気は好調 なり! 本命星の影響で、 自己中心的になりがち なので、注意すべし。兌宮に会しているため、表面的に 柔らかく接 することで、 実り を得るであろう! 我を通さずに人の意見を聞く ことが、吉なり。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	本命星とは相性なれど 年盤で暗剣殺 に位置しているため、 運気は停滞気味 なり。 金運が不調 なために、本月は艮宮の「山」の特徴により、動かずに 現状維持 することが吉なり。年盤上 「酒」「色」には注意 すべし!

月盤 六白金星				年盤 七赤金星			
南				南			
東	5	1	3	東 五黄殺	6	2	4
	4	6	8		5	7	9
	9	2	7		1	3	8
北				北			

◆今月のチェックポイント!

今月で年盤「七赤金星」最後の月となり、月から「六白金星」中宮の年となります。

「七赤金星」中宮で兌宮には「九紫火星」が会していることで、何かと**一緒に燃える(盛り上がる)**

年とも言えます。そして、今月「六白金星」の特徴の一つである「父親」の精神をもつことで…

大盤振る舞いをしてしまう可能性あり! 新年会等で、**支出が大きくならないように気を付けるべし!**

★今月のラッキーテストアイテム

六白は「奉仕」の星です。今月は「奉仕」の心を大事にして、「後工程配慮」を心掛けて**テスト結果・バグレポート**を含む、「**テストウェア**」について見直してみても如何でしょうか?

必要なものは何か!? 伝えたいことは何か!? 全体最適のために自分の「**枠**」を超えてみませんか?

今年一年、皆さんがより良いテストができることをお祈りいたします!!

今月のSTAR★

◆ほーらサンタさんだよー！

我らがスター☆サンタさんがWACATEに登場です！
まずはお茶目な生スター☆を見せることが参加者への最高のプレゼントってワケですね。



お昼には、売子スター☆

スター☆がManiaXを頒布する姿を見れるのはWACATE当日だけ！ということで珍しいだけに本人もちょっと嬉しそうです。



夜はゴングスター☆

毎回一度は持つゴング。こういったチョイ役もすすんでやるのが我らがスター☆。
ゴングを触るときはいつも楽しそうですw



◆そして最後に…

最後は参加者の皆さんに対して、スター☆の熱い思いを伝えました。

「自分自身の成長は加速しつつも、結果がでないことについて、焦らない。」

いつものおふざけは抜きに、名言でした。
こういうところは本当に、地道に努力しているからこそ言える言葉であり、本当にすごい人だな、と思います。改めてスター性を認識しました。



今年も「今月のSTAR☆」と我らがスター☆をよろしく願っています！

書いた人：コヤマン

❁お知らせ❁

2月28日(火)にWACATE-Magazine vol.37 発行します!(たぶん)

今回は「JaSST' 12Tokyo Report!」をお送りします。

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。
来たれ! 投・稿・戦・士!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。
投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。
単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。
公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方はWACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。
折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
 - イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
 - オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)
- などなど、お待ちしております♪



★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いのみに★ManiaXの売り子JDメイドを生で見た!ぴちぴち、可愛い♪
xxさんが握手してたw
よえせ★今年もよろしくお願ひしますっ
コヤマン★WACATE 冬のあとはJaSST Tokyo!素晴らしい流れですな♪
ばんばん★JaSST' 12 TokyoでWACATEが再びやらかしますよっ!こうご期待!!
おらかみ★今月はJaSST Tokyoですな♪皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

★あくづい★
2012/01/21(sat)はっこ
WACATE-Magazineへんしゅうび
✉Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>